愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	経営組織論		
担当者(Instructors)	手嶋 慎介	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

学生がイメージする「組織」という言葉に対する心理的抵抗や消極的姿勢を取り除き、刻々と変化していく組織ダイナミズムを感じながら、組織をマネジメントすることの面白さを学ぶ。ますます激しく変化する経済・社会の中で、仕事の場だけでなく、社会全般にわたって組織とは無縁でいられない私たちが、自分事化できる（自分自身で組織のことを考えられる）ようになるために――その定義や成立条件といった基礎的なところから、統合的な観点のもとで確かな理解を積み上げることをめざす。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義形式

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション　講義の概要、説明	講義のねらい、受講上の注意点の説明。 経営組織論の成り立ちの背景の解説する。	□
第2回	個人の欲求と組織の目的	会社で働くことと個人で働くことの違いなど、組織の論理と個人の論理から「経営組織論」の基礎を学ぶ。	□
第3回	社会化と組織文化	組織と仕事への適応、企業の組織的特性としての組織文化とは何か。	□
第4回	モチベーションと規則の関係	組織におけるルールは守らなければいけないのか。組織の中で個人は自律的に働くことができるのか。	□
第5回	組織のなかでのキャリア開発	日本企業の組織的特質とこれからの個人のキャリア・マネジメントを考える。	□
第6回	組織とリーダーシップ	良きリーダー＆フォロワーを目指すためにはどうしたらよいのか。優れたリーダー行動とは。	□
第7回	集団のダイナミズム	意思決定のプロセス、集団の意思決定はどのようになされるのか。	□
第8回	中間のまとめ	前半までの振り返りと補足を行う。可能であれば、経営者やビジネス実務家によるゲストスピーカー授業形式も行う。	□
第9回	個人と組織の学習メカニズム	人は仕事において、どのように学んでいるのか。組織学習サイクルとは。	□
第10回	コンフリクト・マネジメント	コンフリクトとは何か。組織の業績とコンフリクトの関係はあるのか。	□
第11回	組織のデザイン	分業されたタスクの調整方法など、組織設計を理解する。	□
第12回	環境のマネジメント	会社組織をめぐる実際の環境とはどのようなものか。	□
第13回	組織の変革	組織は変わっていくものなのか。どのようにして変えればよいのか。	□
第14回	経営理念とビジネスシステム	企業組織の長期的な存続に必要なものは何か。	□
第15回	全体をとおして振り返りと補足	全体をとおしての振り返りと補足	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

講義には、参加する講義の中心となるキーワードやテーマを2時間程度調べ講義に参加する。 講義が修了後、講義によって得られた知識や資料、指示された学習内容などを踏まえ、自分で調べたりまとめておくこと（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回提出される感想シートを参考にして、講義前後で課題の整理、解題を行う。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2021地域ビジネスDP2	経営組織を取り巻く環境変化に関心を持ち、その変化がビジネスや社会全体に与える影響を幅広く思考し、多面的な判断の上、中長期的な課題を考えることができる。また、さまざまな個性や、利点及び問題点を抱えている地域社会において、多様な人々と協働し、自己の意思・意欲・計画を他者にわかりやすく説明できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			100%	

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回の講義での感想シートの提出をもって出席とみなす。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	稲葉祐之 他 著 (2022) 『キャリアで語る経営組織〔第2版〕: 個人の論理と組織の論理』有斐閣	
2	佐々木利廣 他 編著 (2022) 『自分事化の組織論: 主体的に考え行動するためのストーリーとロジック』学文社	
3	高尾義明 (2019) 『はじめての経営組織論』 有斐閣	
4	吉沢正広 編著・手嶋慎介 他著 (2018) 『実学 企業とマネジメント』学文社	
5	桑田耕太郎 他著 (2010) 『組織論 補訂版』有斐閣	